

正誤情報

このたびは森北出版株式会社発行の書籍をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。下記の書籍につきまして誤りのある箇所がございましたので、お詫びし訂正させていただきます。

2020年1月9日 森北出版株式会社 生産マネジメント部

タイトル

リーマン面の理論

正誤対象

お手持ちの書籍の刷数をお調べのうえ、下の表をご覧ください。正誤表内の一番左に「対応刷数」という列がございます。該当する刷数の訂正情報をご参照下さい。

なお、刷数につきましては下記「刷数の調べ方」をご参照ください。

お持ちの本の刷数	
1, 2 刷	対応刷数 2 をご参照ください
それ以降	現在把握している訂正情報はございません

刷数の調べ方

本の一番後ろのページ(広告等除く)に下図のようなページがございます。ご参照いただき、お持ちの本の刷数をお調べください。

著者略歴
○○○○ (●●●●・●●●●)
1980年 ×××大学大学院修士課程修了
1980年 ×××大学助手
1990年 ×××大学助教授
2000年 ×××大学教授

編集担当 ■■■■■ (森北出版)
編集責任 ◆◆◆ (森北出版)
紙 版 ○○○○
印 刷 ▲▲印刷
製 本 ▼▼製本

やさしく学べる△△工学 (第2版) ◎○○○ 2014
2001年○月○日 第1版第1刷発行 【本書の権利転載を禁ず】
2007年○月○日 第1版第○刷発行
2010年○月○日 第2版第1刷発行
2014年○月○日 第2版第○刷発行

著 者 ○○○○
発行者 森北 博巳
発行所 森北出版株式会社
東京都千代田区富士見1-4-11 (〒100-0072)
電話 03-3295-8441 / FAX 03-3294-8709
http://www.morikita.co.jp
日本書籍協会・自然科學者協会

※丁乱丁本はお取替えいたしません。
Printed in Japan / ISBN978-4-627-xxxx-x

日付の最も新しい行に記載された数字がお持ちの本の刷数となります

対応刷数	頁	行数, 図・表・式番号	誤	正
2	3	最下行	変形すると,	速度が増加しているという仮定のもとに変形すると,
2	4	9行目	となり,	となり, $u_0 = \tan(\theta_0/2)$ とおくと,
2	4	11行目	となる. $u_0 = \tan(\theta_0/2)$ とおくと,	となる. この変換により,
2	14	8~9行目	これらを無限遠点と α_1 を結ぶ線分と, α_2 と α_3 を結ぶ線分で...	これらを α_1 と α_2 を結ぶ線分と, α_3 と無限遠点を結ぶ線分で...
2	14	図 1.6	右のように修正	
2	38	13行目	(z, w) を X 上の点とする. $J(z, w)$ の階数が...	(z_0, w_0) を X 上の点とする. $J(z_0, w_0)$ の階数が...
2	38	15行目	... (z, w) の近傍...	... (z_0, w_0) の近傍...
2	39	7行目	..., U_p は C の開被覆になっている.	..., $\{U_p\}_p$ は C の開被覆になっている.
2	42	下から5行目	w は $(-1)^{k-1} \mathbf{iR}$ の値に近付き, 上から近付くときは $(-1)^k \mathbf{iR}$ の値...	w は $(-1)^{k-1} \mathbf{iR}_+$ の値に近付き, 上から近付くときは $(-1)^k \mathbf{iR}_+$ の値...

2	42	図 3.1	右のように修正	
2	44	下から 8 行目	$\dots f \circ \psi^{-1} = (f \circ \varphi^{-1}) \circ (\varphi \circ \psi^{-1})$ が正則である...	$\dots f \circ \psi^{-1} = (f \circ \varphi_i^{-1}) \circ (\varphi_i \circ \psi^{-1})$ が正則である...
2	44	下から 7 行目	\dots 定義より $f \circ \varphi^{-1}, \psi \circ \varphi^{-1}$ は正則であるが, φ, ψ とともに...	\dots 定義より $f \circ \varphi_i^{-1}, \psi \circ \varphi_i^{-1}$ は正則であるが, φ_i, ψ とともに...
2	44	下から 6 行目	\dots 正則関数 $\psi \circ \varphi^{-1}$ の逆写像 $\varphi \circ \psi^{-1}$ も...	\dots 正則関数 $\psi \circ \varphi_i^{-1}$ の逆写像 $\varphi_i \circ \psi^{-1}$ も...
2	44	下から 2 行目	$\dots f \circ \varphi_i^{-1} = f \circ \psi_i^{-1} \circ \psi_i \circ \varphi_i^{-1}$ と書ける.	$\dots f \circ \varphi_i^{-1} = f \circ \psi_j^{-1} \circ \psi_j \circ \varphi_i^{-1}$ と書ける.
2	46	6 行目	\dots , この二つが \mathbf{C}^\times で...	\dots , この二つが $\mathbf{C} - \{0\}$ で...
2	61	5 行目	\dots 異なっている.	\dots 同じであるとは限らない.
2	62	定義 4.3(2) 1 行目	\dots , $U = \bigcup_i V_i$ を...	\dots , $U = \bigcup_i U_i$ を...
2	63	3 行目	値に対する加法と...	\mathbf{R} が可換なとき, 値に対する加法と...
2	65	10 行目	\mathcal{U}_p と $\{\rho_{U,V}\}_{V < U}$ は帰納系となる.	$\{\mathcal{O}_X(U)\}_{U \in \mathcal{U}_p}$ は帰納系となる.
2	72	下から 6 行目	$\dots = \prod_{(i_0, \dots, i_n) \in I^{n+1}} \mathcal{F}_{(i_0, \dots, i_n)}$	$\dots = \prod_{(i_0, \dots, i_n) \in I^{n+1}} \mathcal{F}_{i_0, \dots, i_n}$
2	74	13 行目	ここで, $\Gamma(X, \mathcal{F}) = X(\mathcal{F})$ で定義する.	ここで, $\Gamma(X, \mathcal{F}) = \mathcal{F}(X)$ で定義する.